

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02260

研究課題名(和文) 家族・経済・超越 近現代日本の文脈からみた共同体論の倫理的再検討

研究課題名(英文) Family, Economy, and Transcendence: An ethical reconsideration on community theory in the context of modern Japan

研究代表者

熊野 純彦 (Kumano, Sumihiko)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：00192568

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：和辻哲郎に代表される近代日本の共同体論形成に重要な役割を果たした日本の伝統思想や西洋思想について調査し、和辻の思想が、それら諸思想をどのように継承・受容し、また交錯しながら形成されたのかについて、多角的観点から明らかにした。また、従来あまり重視されてこなかった和辻哲郎の宗教的資質について検討し、それが和辻の思想にどのように影響しているのかについて考究した。これらの作業を通じて、近現代日本の共同体論の前提を再検討し、新たな議論のための基盤を造成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これらの成果は、まず、従来の和辻像を更新する研究として学術的意義を有する。また、「自由」や「人格」、「家族」といった、現代の共同体論において重要でありつつ、科学・医療技術の発達や社会情勢の変化などにより、その自明性が揺さぶられている問題系について、それらに関する和辻倫理学の達成と限界とを確認しつつ問い直すことによって、新たな論点を獲得している。加えて、科学技術の発達のみでは原理的に解決しえない人間の有限性・不確定性を視野におさめた共同体論の構築が求められている現代において、和辻における宗教性の可能性と限界とを検討した本研究は、相応の意義を持つはずである。

研究成果の概要(英文)：We investigated Japanese traditional thoughts and Western thoughts, which had played important roles in the formation of modern Japanese community theory as represented by the ethics of Watsuji Tetsuro. And from various perspectives, we clarified how Watsuji's thoughts were formed by inheriting and accepting, interlacing those Japanese and Western thoughts. In addition, we examined Watsuji's religious qualities, which had not been emphasized so much in previous studies, and we investigated how the qualities influenced his thoughts. Through these works, we reconsidered and elucidated the premise of modern Japanese community theory and laid the foundation for new discussions about it.

研究分野：人文学

キーワード：共同体 和辻哲郎

1. 研究開始当初の背景

戦後日本の共同体観の曖昧さ、今日のその共同体観自体の動揺、それに呼応した新自由主義的なグローバル化の各種共同体内部への急速な浸透等といった問題状況に対する応答は、それまで主に政治学・社会学周辺に限られ、倫理的見地からの検討が不足していた。西洋倫理学における共同体論が、自己の思想の歴史的な文脈への反省にのっとりた議論の参照軸／基盤が共有されているがゆえに具体的な議論を喚起しえているのに対して、国内における共同体論は、伝統思想と西洋思想とが乖離し、つまりは今日にいたるまでの思想的文脈が哲学的に十分に検討されていないために、有効かつ具体的な議論を行うための基盤が整備されていない状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、国内の倫理的な共同体論の先駆である和辻哲郎の議論を参照軸としつつ、近現代日本の思想状況において伝統／西洋双方の倫理思想がどのように継承・受容され、交錯していたのかを、「家族」「経済」「超越」の三つの観点から再検討することを通じて、今日の共同体をめぐる問題状況の思想的な前提そのものの整理・検証を行い、共通の議論基盤を造成することである。

3. 研究の方法

本研究は、テキストの内在的理解に基づく文献学的方法を基調とする。そのうえで、(1) 主要な三つのテーマ（「家族」「経済」「超越」）ごとに設置される部会と、それらの成果を総合する研究会・討論会からなる組織のもと、個別的専門的観点と総合的横断的観点の両面から研究を遂行する。(2) 和辻共同体論の分析を通じ、近現代日本の思想状況に即して、「家族」に関しては家族観の新旧相交わる両義的性格を、「経済」に関しては「経済」観そのものの変遷を、「超越」に関しては共同体の紐帯としての超越観の帰趨を、各テーマの中心課題とする。(3) 研究を年次に合わせて四段階（「和辻共同体論の参照軸化」「各層の各思想の内在的理解」「交錯実態の解明」「議論基盤の造成」）に分け、かつ短期的成果と長期的成果のバランスをとる。

4. 研究成果

(1) 和辻哲郎をはじめ、近現代の日本における共同体論の思想史的背景について、個別の研究を深めた。主な実績としては、①熊野純彦が著書『本居宣長』において、近世から現代にいたるまでの代表的な思想家たちによる本居宣長の思想の受容過程を丹念に整理・検証することで、それを近代日本の精神史の一齣として提示することを試みた。②また、和辻倫理学においても重要な位置を占める「空」概念をめぐる仏教思想について、頼住光子が国内外で精力的に発表をしている。その他、各分担者が個別研究の形で各媒体に成果を発表している。

(2) 上記(1)の成果を踏まえつつ、和辻哲郎の思想が、どのように東西の思想を継承・受容し、また交錯しながら形成されたのかについて、これまで以上に緻密に、かつ多角的観点から明らかにした。主な実績としては、①山蔦真之が和辻の「個人」概念について、カントやヘーゲルとの比較を通じて検討し、②あるいは宮村悠介が和辻の「人格」概念に注目し、倫理学形成過程におけるシェラーの影響と対話の形跡を跡付けている。③また、近年、和辻の研究においては、後年の書き換えが施されている全集版のテキストだけでなく、初版本や初出論文、あるいは蔵書への書き込み等が用いられることが増えてきているが、本研究でもそうした状況にかんがみ、『初稿 倫理学』の編者を招聘して研究会を開催し、和辻倫理学の背景に、当時最新の哲学研究・哲学的人間学研究などとの交流の成果を認めることができた。

(3) 従来あまり重視されてこなかった和辻哲郎の宗教的資質について、その実態を明らかにし、それがその後の思想展開にあたってどのように影響し、あるいは断念されたのかを検討した。主な実績としては、①木村純二が、和辻の学問における宗教の位置づけについて、和辻に宗教的感性を認めない立場に対して、むしろ豊かな宗教的感性を有していたからこそ信仰と文化史研究を区分して前者を断念したと論じ、和辻解釈に新たな視点をもたらした。②また、吉田真樹が、『歌舞伎と操り浄瑠璃』を、『日本倫理思想史』においては捉えきれなかった仏教思想を扱おうとする著作として位置づけつつ、その達成と限界とを検討している。その他、頼住光子や宮下聡子も、これまであまり注目されてこなかった幼少期や青年期の文献を用いるなどしつつ、仏教思想やキリスト教的な観点から和辻の宗教性について論じた。

上記(2)(3)の研究成果については、木村純二・吉田真樹編『和辻哲郎の人文学』（ナカニシヤ出版、2021年）や『倫理学紀要』第28輯（東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2021年）といった論文集をはじめ、各種媒体で発表されている。もともと本研究では、三つの部会のうちのひとつとして「超越」部会が設置されていたが、研究計画が進むにつれて、「超越」部会に留まらず、分担者の間で、それぞれの関心に基づきつつ和辻倫理学における「超越」に関わる事

柄について検討されることが増え、実際、上記(2)に該当する論文でもこの問題に言及しているものがある。

(4) これらの成果は、まず、従来の和辻像を更新するものとして、専門領域において評価することができる。近年、和辻倫理学は国内外で関心が高まっているが、本研究の成果は今後の和辻研究においても参照されるものとなるはずである。他方、それらは専門的な和辻研究に新しい視角をもたらすだけではない。上記(2)の成果は、例えば「自由」や「人格」、「家族」といった、現代の共同体論において重要でありつつ、科学・医療技術の発達や社会情勢の変化などにより、その自明性が揺さぶられている問題系について、それらに関する和辻倫理学の達成と限界とを確認しつつ問い直すことによって、新たな論点を獲得している。上記(3)の成果は、人間の有限性・不確定性を視野におさめた共同体論を構築する上で、新たな議論の基盤を提供することになるだろう。科学技術の発達にもかかわらず、依然として私たちは、人の力ではコントロールしきれない事態を前にして、うろたえ、傷つかざるをえない。不如意さや脆弱性を抱えて生きる人間の共同体について考える際、「超越」とのかかわりは重要な問題点となるが、この論点について、現代日本の共同体論は、和辻倫理学が抱えていた学問と宗教との乖離の問題を引き継いでしまっているところがある。したがって、和辻における宗教性の可能性と限界とを見定めることは、現代の共同体論の思想的前提を問い直し、新たな可能性を思考することにつながるのである。

(5) 今後の課題・展望としては、本研究計画を進める中で明らかになった、上述した和辻および近現代日本における「超越」の問題をより深く検討する必要がある。また、このことと密接に関連することとして、同様に「幸福」概念についても概念史的知見に基づいて焦点化する必要があると思われる。参照軸とした和辻倫理学には「幸福」概念への言及が乏しく、またその傾向はかねてより和辻倫理学に指摘されている「超越」概念の水平化の傾向と、おそらく連動している。そして、同じ傾向は和辻倫理学以降の現代日本の倫理学研究にも大なり小なり認められる。現代では、幸福の問題が、主に経済学や社会学、心理学、自然科学等の領域において、しばしば主観的状态としての「幸福度」「幸福感」を基軸とする定量的調査・分析と、その数値の現行の政策・マネジメント・技術への反映という問題に限られた形で取り扱われるが、そこでは、不確定性(運・偶然等)の問題や人間の有限性・可死性についての問題、およびそれらと表裏をなす「超越」の問題が看過されがちである。したがって、今日の共同体論を真に俯瞰するためには、「幸福」概念について、「超越」概念との結びつきを基軸としつつ、概念史的に研究することが課題となるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計53件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 14件）

1. 著者名 古田徹也	4. 巻 34
2. 論文標題 まだ説明は終わっていない 医師の自由をめぐるウィトゲンシュタインの思考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 実存思想論集	6. 最初と最後の頁 63-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 27
2. 論文標題 ヘーゲルの「良心」概念における「内面」の意味とその射程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 75-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00079145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岡田大助	4. 巻 29
2. 論文標題 『葉隠』における武士の超越者との関わりについて：聞書三から六を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦真之	4. 巻 70
2. 論文標題 迂回された近代：和辻倫理学におけるカント受容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 哲学	6. 最初と最後の頁 266-279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 9
2. 論文標題 * ライブニッツとシェリング : 『諸世界時代』における同一性の理論をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際哲学研究	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34428/00011557	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 54
2. 論文標題 運動としての無制約者 シェリングの自然哲学の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 69-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮村悠介	4. 巻 69
2. 論文標題 カント哲学の人間学的還元 G・クリューガーのカント解釈	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告, 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 57 - 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮村悠介	4. 巻 20
2. 論文標題 カント倫理学と徳の理念の問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本カント研究	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 6
2. 論文標題 大乘仏教の思想家としての法然	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佛教大学法然仏教学研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 115-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 26
2. 論文標題 道元の思想構造 : 『正法眼蔵』 「現成公案」 巻 冒頭の二文の解釈をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 MORALIA	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 4
2. 論文標題 道元の思想構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際禅研究	6. 最初と最後の頁 67-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 24
2. 論文標題 ヘーゲル「精神哲学」における「実践的精神」の構造 : 「ハイデルベルク・エンツュクロペディ」を読み直す意味をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 108-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 26
2. 論文標題 ヘーゲルにおける「幸福」の取り扱い：「実践的精神」から「客観的精神」への移行をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 173-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山蔦真之	4. 巻 94
2. 論文標題 Überwindung des westlichen Individualismus? Tetsuro Watsuji's Kritik der Ethik Kants	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studien und Materialien zur Geschichte der Philosophie	6. 最初と最後の頁 315-322
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 5
2. 論文標題 聖なるもの のためのプロレゴメナ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ニクス	6. 最初と最後の頁 10-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 5
2. 論文標題 墮天使と悪魔の諍い：カイヨワとバタイユとの 聖なるもの の差異	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ニクス	6. 最初と最後の頁 78-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村純二	4. 巻 15
2. 論文標題 日本におけるキリスト教土着化の課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文学と神学	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村純二	4. 巻 23
2. 論文標題 歌語としての「みたま」(一)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北学院大学宗教音楽研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田徹也	4. 巻 34
2. 論文標題 共同行為論の射程：分析系の議論を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴倍暎	4. 巻 44
2. 論文標題 儒教は反文明論なのか - 福沢諭吉の儒教批判を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較思想研究	6. 最初と最後の頁 102-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 2
2. 論文標題 倫理・道德教育の目指すもの 倫理学・日本倫理思想史研究の立場からの一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理道德研究	6. 最初と最後の頁 42-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 26
2. 論文標題 和辻哲郎の思想形成と宗教 初期の作品を手がかりとして	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 129-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田大助	4. 巻 29
2. 論文標題 武士道における武辺、慈悲、情けについて 『三河物語』『葉隠』『甲陽軍鑑』を手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生博之	4. 巻 144
2. 論文標題 「開かれること」としての自律 アドルノにおける「自律」概念の再構成(上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文自然科学論集(東京経済大学人文自然科学研究会編)	6. 最初と最後の頁 256-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 24
2. 論文標題 シェリングとヘーゲルの対立をめぐる対話	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 135-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 1137
2. 論文標題 シェリングとヘーゲルの差異をめぐる――ヘーゲル批判への応答可能性を探る	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 105-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 53
2. 論文標題 シェリングにおける人間的自由の理論 その思想史的背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 白山哲学	6. 最初と最後の頁 85-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古田徹也	4. 巻 45-21
2. 論文標題 共同行為の問題圏	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 222-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 25
2. 論文標題 道元における「さとり」の世界とその表現 『正法眼蔵』「梅華」巻註解の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 134-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田真樹	4. 巻 上
2. 論文標題 『葉隠』の武士言語 「候」の射程について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 山本常朝・田代陣基著、佐藤正英校訂、吉田真樹監訳注『定本 葉隠〔全訳注〕 上』	6. 最初と最後の頁 573～582
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 アズビー・ブラウン / 板東洋介	4. 巻 116
2. 論文標題 【対談】江戸に学ぶサステナブルな都市のあり方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cel	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 67
2. 論文標題 市民社会における欲求と世界史における情熱：ヘーゲル「客観的精神の哲学」の動態をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 149-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 25
2. 論文標題 回帰する自然 / 自然の残滓 : ヘーゲル「客観的精神の哲学」における自然の地位・試論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 184-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤村安芸子	4. 巻 14
2. 論文標題 日本仏教思想史上の『源氏物語』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較日本学教育研究部門研究年報	6. 最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 宮下聡子	4. 巻 14
2. 論文標題 ヨブの苦難をめぐる 『ヨブ記』をたどる	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 67
2. 論文標題 パライユにおける聖と俗の対立の問題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 203-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴倍暎	4. 巻 44
2. 論文標題 儒教は反文明論なのか - 福沢諭吉の儒教批判を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 比較思想研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒谷大輔、岡田大助、中原真祐子他6名	4. 巻 28
2. 論文標題 大学教育において求められる「新しい教育」の検討 江戸川大学における「アカデミック・スキル演習」の導入	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒谷大輔、岡田大助、中原真祐子他6名	4. 巻 28
2. 論文標題 「新しい教養」のための「チーム・ティーチング」 江戸川大学、基礎・教養教育センターの実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒谷大輔	4. 巻 28
2. 論文標題 現代社会における「自由と必然」の問題 縦読みの思想史研究の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 17-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田大助	4. 巻 31
2. 論文標題 『甲陽軍鑑』の大将論に見る武士の主従関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 江戸川大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮下聡子	4. 巻 28
2. 論文標題 和辻倫理学の宗教性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 54-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002000087	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮村悠介	4. 巻 70
2. 論文標題 家族は人格ではない 和辻共同体論のコンテキスト	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告, 人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 48-17
2. 論文標題 世界に魔法をかける	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 50-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 53-1
2. 論文標題 受肉せざるもの：ぬいぐるみの現象学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 142-150
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山蔦真之	4. 巻 69
2. 論文標題 和辻の「個人」論：カント、ヘーゲルとの比較を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 倫理学年報	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木雄大	4. 巻 28
2. 論文標題 町人根性論 和辻倫理学における有用性の問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 33-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002000086	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池松辰男	4. 巻 26
2. 論文標題 意識の構造とその背後 現代実在論の課題とヘーゲル主観的精神 / 客観的精神の哲学の射程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 48-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 麻生博之	4. 巻 28
2. 論文標題 「可能的な間柄」への超出 和辻倫理学における自由論の一断面	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 倫理学紀要	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/0002000085	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 3
2. 論文標題 道元の思想と表現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ひらく	6. 最初と最後の頁 174-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 頼住光子	4. 巻 117-3
2. 論文標題 禅の思想から見る「自立」 道元『正法眼蔵』から考える道元の哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学鏡	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 26
2. 論文標題 カテゴリーとは何であるか、いかにして導出されるのか カテゴリー論としてのヘーゲル論理学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ヘーゲル哲学研究	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三重野清顕	4. 巻 14
2. 論文標題 和辻哲郎における歴史と解釈学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際哲学研究別冊	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件 (うち招待講演 23件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 池松辰男
2. 発表標題 意識の構造とその背後 現代実在論の課題とヘーゲル主観的精神の哲学 / 客観的精神の哲学の射程
3. 学会等名 日本ヘーゲル学会第29回研究大会 (日本福祉大学) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 荒谷大輔
2. 発表標題 「フランス現代思想」のその後 : 社会運動の観点から
3. 学会等名 日本倫理学会第70回大会 (主題別討議「フランス思想の現在」) (山口大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山薫真之
2. 発表標題 和辻の「個人」論 : カント、ヘーゲルとの比較を中心に
3. 学会等名 日本倫理学会第70回大会 (共通課題「和辻倫理学の可能性」) (山口大学) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三重野清顕
2. 発表標題 カテゴリーとは何であるか、いかにして導出されるのかーカテゴリー論としてのヘーゲル論理学
3. 学会等名 日本ヘーゲル学会シンポジウム「カテゴリー論としてのヘーゲル論理学」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 道元思想構造 『正法眼蔵』「現成公案」巻を手がかりとして
3. 学会等名 三田哲学会哲学・倫理学部門例会講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 日本における自然観の様態 道元の自然観を手がかりとして
3. 学会等名 京都大学国際シンポジウム「未来創成学の展望」（京都大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 道元の自然観
3. 学会等名 International Conference “Does Nature Think?”（京都大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板東洋介
2. 発表標題 Does 'Eastern Nothingness' Really exist? Nature, Technology, Metaphysics: An Encounter Between German And Japanese Philosophy
3. 学会等名 International Centre For Philosophy, Bonn University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田真樹
2. 発表標題 『源氏物語』という根源
3. 学会等名 日本倫理学会第69回大会(主題別討議「物語という方法」)(玉川大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木村純二
2. 発表標題 物語は何を表現し得るか? その起源から変質まで
3. 学会等名 日本倫理学会第69回大会(主題別討議「物語という方法」)(玉川大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古田徹也
2. 発表標題 分析系の人生の意味論とウィトゲンシュタイン
3. 学会等名 哲学会第57回研究発表大会、ワークショップ「ウィトゲンシュタインの現在」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 道元思想構造
3. 学会等名 第1回道元研究国際シンポジウム「世界の道元研究の現在」第2セッション提題(東洋大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 道元の時間論
3. 学会等名 時間学国際シンポジウム2018「中世日本の時間意識」(通称TIMEJ)宗教セッション提題(山形大学時間学研究所)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 中世から近世へ 道元の時間論から見た円山道白における「復古」について
3. 学会等名 日本思想史学会創立50周年記念第2回シンポジウム:総合テーマ「日本思想史学の現在と未来」提題(神戸大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 倫理・道徳教育の目指すもの 倫理学・日本倫理思想史研究の立場からの一考察
3. 学会等名 第3回日本倫理道徳教育学会研究大会公開シンポジウム:テーマ「これからの日本社会における倫理教育・道徳教育の正当性の基盤について考える」(筑波大学筑波キャンパス)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 日本思想における共生
3. 学会等名 中國文化大学日本研究中心発足記念国際シンポジウム(台北市) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮村悠介
2. 発表標題 カント倫理学と徳の理念の問題
3. 学会等名 日本カント協会第43回大会シンポジウム「カントと理念の問題」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三重野清顕
2. 発表標題 運動としての絶対者 初期シェリングにおける絶対者観の検討
3. 学会等名 2018年度早稲田大学哲学会シンポジウム：「実存の悲劇的根拠」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三重野清顕
2. 発表標題 イェナ期フィヒテの「衝動」概念のその後の展開 ヘーゲル哲学の形成史との関連において
3. 学会等名 日本フィヒテ協会第34回大会シンポジウム「フィヒテの「衝動」概念をめぐる問題状況」 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板東洋介
2. 発表標題 徂徠学・国学のなかの『武』
3. 学会等名 第8回東海日本思想史研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 板東洋介
2. 発表標題 〔シンポジウム〕「畏敬の念」をどのように教えるか
3. 学会等名 第4回道徳科教育協議会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 黒崎剛, 池松辰男, 伊藤功, 川瀬和也
2. 発表標題 ハイデルベルク・エンチュクロペディー刊行200年
3. 学会等名 日本ヘーゲル学会第26回研究大会(東洋大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 池松辰男他5名
2. 発表標題 最新研究サーベイ ヘーゲル講義録入門
3. 学会等名 日本ヘーゲル学会第25回研究大会(同志社大学)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古田徹也
2. 発表標題 共同行為論の射程――分析系の議論を中心に
3. 学会等名 日本現象学会2017年度年度研究大会（第39回）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤村安芸子
2. 発表標題 日本仏教思想史上の『源氏物語』
3. 学会等名 第19回国際日本学シンポジウム「文化史上の源氏物語セッション 制度・規範の変遷と『源氏物語』 明文化された制度と慣習としての制度」（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 YAMATSUTA SANEYUKI
2. 発表標題 Ueberwindung des westlichen Individualismus?
3. 学会等名 VII. Multilaterales Kant-Kolloquium (Immanuel-Kant-Forum: Tagungen und Kongresse)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮下聡子
2. 発表標題 ユングの悪理解
3. 学会等名 日本宗教学会第76回学術大会（『宗教研究』第91巻別冊、日本宗教学会、2018年3月、192 - 194頁掲載）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 朴倍暎
2. 発表標題 儒教は反文明論なのか - 福沢諭吉の儒教批判を手がかりに
3. 学会等名 比較思想学会第44回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐々木雄大
2. 発表標題 闘と隙間：イタリア現代思想の宗教的源泉
3. 学会等名 日本倫理学会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 中世日本哲学と世界哲学
3. 学会等名 東京大学東アジア藝文書院（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 頼住光子
2. 発表標題 Il significato della pratica tra le montagne di Dogen: il rapporto tra il mondo secolare e le montagn
3. 学会等名 Associazione Culturale Centro Zen Firenze（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計24件

1. 著者名 熊野純彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 288
3. 書名 三島由紀夫 人と思想197	

1. 著者名 熊野純彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 作品社	5. 総ページ数 120
3. 書名 源氏物語 = 反復と模倣	

1. 著者名 古田徹也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 不道德的倫理学講義：人生にとって運とは何か	

1. 著者名 古田徹也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 360
3. 書名 ワイトゲンシュタイン 論理哲学論考	

1. 著者名 荒谷大輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 280
3. 書名 資本主義に出口はあるか	

1. 著者名 G. W. F. ヘーゲル、熊野 純彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 670
3. 書名 精神現象学 上	

1. 著者名 G. W. F. ヘーゲル、熊野 純彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 623
3. 書名 精神現象学 下	

1. 著者名 池松辰男	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 ヘーゲル「主観的精神の哲学」 精神における主体の生成とその条件	

1. 著者名 古田 徹也	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 249
3. 書名 言葉の魂の哲学	

1. 著者名 藤村安芸子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 263-288
3. 書名 飯野勝己・樋口浩造(編著)『暴力をめぐる哲学』	

1. 著者名 板東 洋介	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 278
3. 書名 徂徠学派から国学へ	

1. 著者名 頼住光子、末木文美土、大谷栄一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 289
3. 書名 日本仏教を捉え直す	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基（著）、佐藤正英（校訂）、吉田真樹（監訳注）、木村純二・板東洋介・岡田大助（訳注）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 582
3. 書名 定本 葉隠〔全訳注〕 下	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基（著）、佐藤正英（校訂）、吉田真樹（監訳注）、木村純二・板東洋介・岡田大助（訳注）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 522
3. 書名 定本 葉隠〔全訳注〕 中	

1. 著者名 山本常朝・田代陣基（著）、佐藤正英（校訂）、木村純二・吉田真樹（監訳注）、板東洋介・岡田大助（訳注）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 582
3. 書名 定本 葉隠〔全訳注〕 上	

1. 著者名 朱子学会・厦門大学国学研究院（編）、板東洋介他（著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 商務印書館	5. 総ページ数 346
3. 書名 朱子学年鑑（2016）	

1. 著者名 荒谷大輔、小長野航太、桑田光平、池松辰男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 せりか書房	5. 総ページ数 250
3. 書名 ラカン『精神分析の四基本概念』解説	

1. 著者名 助川幸逸郎他（編）、藤村安芸子他11名（著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 328
3. 書名 新時代への源氏学 4 制作空間の<紫式部>	

1. 著者名 熊野純彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 マルクス 資本論の哲学	

1. 著者名 熊野純彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 314
3. 書名 カント 美と倫理とのはざままで	

1. 著者名 荒谷大輔	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 269
3. 書名 ラカンの哲学 哲学の実践としての精神分析	

1. 著者名 古田徹也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 はじめてのウィトゲンシュタイン	

1. 著者名 木村純二、吉田真樹編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 和辻哲郎の人文学	

1. 著者名 板東洋介	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 304
3. 書名 人と思想198 谷崎潤一郎	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 純二 (Kimura Junji) (00345240)	東北学院大学・文学部・教授 (31302)	
研究分担者	横山 聡子(宮下聡子) (Miyashita Satoko) (00511825)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授 (12611)	
研究分担者	古田 徹也 (Furuta Tetsuya) (00710394)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	池松 辰男 (Ikematsu Tatsuo) (10804411)	島根大学・学術研究院教育学系・講師 (15201)	
研究分担者	岡田 安芸子(藤村安芸子) (Fujimura Akiko) (20323561)	駿河台大学・スポーツ科学部・教授 (32411)	
研究分担者	吉田 真樹 (Yoshida Masaki) (20381733)	静岡県立大学・国際関係学部・准教授 (23803)	
研究分担者	荒谷 大輔 (Araya Daisuke) (40406749)	江戸川大学・基礎・教養教育センター・教授 (32518)	
研究分担者	中野 裕考 (Nakano Hiroataka) (40587474)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授 (12611)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 雄大 (Sasaki Yuta) (40598637)	日本女子大学・人間社会学部・講師 (32670)	
研究分担者	麻生 博之 (Aso Hiroyuki) (50317905)	東京経済大学・全学共通教育センター・教授 (32649)	
研究分担者	岡田 大助 (Okada Daisuke) (50713210)	江戸川大学・基礎・教養教育センター・准教授 (32518)	
研究分担者	山蔦 真之 (Yamatsuta Saneyuki) (50749778)	名古屋商科大学・国際学部・准教授 (33914)	
研究分担者	朴 倍暎 (Park Baiyeong) (70361558)	日本女子大学・人間社会学部・教授 (32670)	
研究分担者	三重野 清顕 (Mieno Kiyooki) (70714533)	東洋大学・文学部・准教授 (32663)	
研究分担者	宮村 悠介 (Miyamura Yusuke) (70747089)	愛知教育大学・教育学部・講師 (13902)	
研究分担者	頼住 光子 (Yorizumi Mitsuko) (90212315)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板東 洋介 (Bando Yosuke) (90761205)	皇學館大学・文学部・准教授 (34101)	
研究分担者	長野 邦彦 (Nagano Kunihiko) (00882565)	東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・助教 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関